高年级

综合日语

上册

总主编
彭广陆 〔日〕守屋三千代
本册主编
应 杰 秦 刚 〔日〕百留康晴
审订
孙宗光 〔日〕阪田雪子 远藤织枝

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

本教材获得笹川和平财团笹川日中友好基金会的赞助

高年级综合日语

总 主 编：彭广陆　〔日〕守屋三千代
副总主编：何　琳　〔日〕今井寿枝　野畑理佳
审　　订：孙宗光　〔日〕阪田雪子　远藤织枝

上册

主　编：应　杰　秦　刚　〔日〕百留康晴
副主编：王轶群　〔日〕百留惠美子
编　者：丁　莉　何　琳　刘　健　彭广陆
秦　刚　孙佳音　王轶群　应　杰
〔日〕今井寿枝　远藤织枝　冈　智之
押尾和美　野畑理佳　百留惠美子
百留康晴　平高史也　守屋三千代

温州师范学院图书馆
藏书

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

高年级综合日语.上册/彭广陆,(日)守屋三千代总主编;应杰,秦刚,(日)百留康晴主编.—北京:北京大学出版社,2014.1

ISBN 978-7-301-23645-1

Ⅰ.高… Ⅱ.①彭…②守…③应…④秦…⑤百… Ⅲ.日语—高等学校—教学参考资料 Ⅳ.H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2013)第318444号

书　　名:高年级综合日语(上册)
著作责任者:彭广陆 〔日〕守屋三千代 总主编 应 杰 秦 刚 〔日〕百留康晴 主编
责任编辑:兰 婷
标准书号:ISBN 978-7-301-23645-1/H·3459
出版发行:北京大学出版社
地　　址:北京市海淀区成府路205号 100871
网　　址:http://www.pup.cn 新浪官方微博:@北京大学出版社
电子信箱:lanting371@163.com
电　　话:邮购部62752015 发行部62750672 编辑部62759634 出版部62754962
印 刷 者:北京大学印刷厂
经 销 者:新华书店
787毫米×1092毫米 16开本 12.75印张 210千字
2014年1月第1版 2014年1月第1次印刷
定　　价:36.00元

未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有,侵权必究

举报电话:010-62752024 电子信箱:fd@pup.pku.edu.cn

《高年级综合日语》中方编辑委员会成员：

主任：彭广陆（北京大学教授）
顾问：孙宗光（北京大学教授、原广岛女学院教授）

（以汉语拼音为序）
丁　莉（北京大学副教授）
何　琳（首都师范大学副教授）
刘　健（首都师范大学讲师）
秦　刚（北京外国语大学副教授）
孙佳音（北京语言大学副教授）
王轶群（中国人民大学副教授）
应　杰（北京外国语大学副教授）

《高年级综合日语》日方编辑委员会成员：

主任：守屋三千代（创价大学教授）
顾问：阪田雪子（杏林大学名誉教授、原东京外国语大学教授）
　　远藤织枝（原文教大学教授）

（以日语五十音为序）
今井寿枝（国际交流基金会关西国际中心日语教育专员）
冈　智之（学艺大学教授）
押尾和美（国际交流基金会日语国际中心专任讲师）
野畑理佳（国际交流基金会关西国际中心日语教育专员）
百留惠美子（原高雄第一科技大学助理教授）
百留康晴（岛根大学准教授）
平高史也（庆应义塾大学教授）

前　言

《高年级综合日语》是与《综合日语》(修订版,第1–4册,北京大学出版社)衔接的主干教材,供国内高等院校日语专业高年级(三、四年级)精读课使用,全套教材分为上、下两册。

本教材的编写从2011年开始策划,由中日两国专家学者通力合作,共同编写。编委会由老中青三代中日两国专家学者组成,大多数成员具有丰富的教学经验和教材编写经验。由于日本文学、日本文化专家的加盟,使得编写出一套勇于探索、大胆创新、具有独特视角的日语高年级精读教材成为可能。

本教材编写过程中得到了日本笹川和平财团笹川日中友好基金会的大力资助,编写工作才得以顺利进行。编委会多次召开全体会议,共同讨论编写方针、编写体例、各课的构成,认真遴选文章,反复推敲样稿。

《高年级综合日语》注重提高学生的语言运用能力,同时注重培养学生的综合人文素养,注重与文学、社会、文化等人文学科知识体系的对接,注重培养学生的思考、表达以及批判、反思的能力。编者对现有教材进行了充分的检视和总结,课文的选篇上,考虑其领域、背景、主题是否具有扩展性和延伸性,原则上回避国内同类教材中已选的篇章,主要选用新近发表、出版的,具有一定影响力、能代表某一领域前沿思想的文章。

教材所选文章题材各异,帮助学生通过本教材的学习,获取观察、解读日本及世界的视点与方法。另外,为了帮助学生真正理解文章内容,梳理内在逻辑关系,理解作者的独特主张,体味文章深层蕴含的文化内涵,了解日本人的思维方式,并通过自己的思考对有关问题有条理地陈述自己的见解,本教材除了词汇、语法等常规性信息外,还设计了阅读前思考、阅读后思考等环节,并为学生的自主学习提供多视角的信息。

《高年级综合日语》(上、下册)分别由10课组成,每课的构成部分及其排列顺序如下:

(1) 学习目标(「学習目標」),侧重课文内容的理解和语言表达的学习;

(2) 读前思考(「読む前に」);

(3) 作者简介(「筆者紹介」),提供有关作者的必要信息;

(4) 课文(「本文」);

(5) 词语解释(设在正文部分两侧),以解释专有名词或熟语等为主;

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

(6) 思考题(设在正文部分两侧);
(7) 日汉同形词(设在正文部分下面),标出读音和声调符号;
(8) 生词表(「新出单語」),词义用日语解释;
(9) 要点解说(「ポイント解説」),对课文中出现的关键词语进行讲解。
(10) 语法解说(「文法解説」),以句式讲解为主;
(11) 语法练习(「文法練習」),以完型练习为主;
(12) 阅读练习(「読解練習」);
(13) 拓展练习(「タスク」);
(14) 拓展阅读(「さらに知るための手がかり」),可以开阔视野,深入探究。

每册卷末附有生词索引、语法项目索引等。

我们希望《高年级综合日语》能够为学生的日语学习提供有效的帮助。最后衷心地感谢笹川和平财团笹川日中友好基金会的资助,同时感谢为本教材的编辑出版付出辛勤劳动的北京大学出版社编辑兰婷女士和为本教材联系版权事宜的北京大学出版社李昊先生。

《高年级综合日语》编辑委员会
2013年10月23日

目　次

1．言葉の力学 …… 1
第１課　ニホン語に出会う/小森陽一　3
第２課　日本語の「ぼかし」表現/井上優　19
2．自然との共生 …… 29
第３課　ガラスの地球を救え/手塚治虫　31
第４課　神様2011/川上弘美　49
3．暮らしの奥行 …… 73
第５課　刺身の風景/奥村彪生　75
第６課　サザエさんをさがして/坂本哲史、斎藤鑑三　95
4．文化への眼差し …… 113
第７課　雅の美学/三井秀樹　115
第８課　「かわいい」論/四方田犬彦　129
5．越境 …… 147
第９課　留学の力学/河部利夫　149
第10課　越えてきた者の記録/リービ英雄　165
単詞索引 …… 178
語法索引 …… 194
参考書目 …… 195

1．言葉の力学

第１課　ニホン語に出会う

小森陽一

第２課　日本語の「ぼかし」表現

井上優

第1課　ニホン語に出会う

学習目標

1. 言語体験における葛藤を通じて、ことばと文化・社会との関連性を考える。
2. 文体の誤用によりミス・コミュニケーションが生じることを理解する。

読む前に

場面や、話し手と聞き手の関係によって表現は変わります。次のイラストの猫がどんな場面でどんな口調で言っているか、想像してみましょう。

＊イラストは『小森陽一、ニホン語に出会う』(大修館書店、2000)からの引用

筆者紹介

小森陽一(こもり　よういち)、1953年東京生まれ。東京大学教授。専門は、日本近現代文学。日本「九条の会」事務局長。少年時代に4年間チェコスロヴァキアで過ごし、ロシア語学校に通っていた。主な著書は『構造としての語り』『「ゆらぎ」の日本文学』など。本文は『小森陽一、ニホン語に出会う』(大修館書店、2000)からの抜粋。

ニホン語に出会う

なぜ「日本語」ではなく「ニホン語」と表記しているかに注意。

小森陽一

私が日本に帰国したのは、小学校六年生の年末だったので、学校へ行き始めたのは三学期がはじまってからでした。最初の違和感は、一日目の帰りに感じました。下駄箱から靴を出していると、ジロジロとこちらを見るみんなの視線に気づきました。はじめは何のことだかよくわかりませんでしたが、みんなが上履きから履きかえている靴は、すべて同じような、いわゆる「運動靴」であるにもかかわらず、私だけが、革靴を履いていたのです。宮沢賢治の『風の又三郎』に出てくる転校生の高田三郎が「赤い革の半靴をはいていた」ことで、「あいつは外国人だな」と言われてしまうのと、同じまなざしが、私を射すくめていたわけです。

三学期：日本の教育制度では、高校までは３つの学期に分けられている。その３番目の学期。

なぜジロジロと見られたのか。

宮沢賢治（みやざわけんじ）：1896－1933。詩人、童話作家。

『風の又三郎』（かぜのまたさぶろう）：宮沢賢治の短編小説。主人公は、高田三郎（たかださぶろう）。風の又三郎は地元で伝説となっている風の神様の子。神というよりも悪霊に近い存在。作品中では、転校生高田三郎のあだ名である。

それから二週間ほどたつうちに、あることに私は気がつきました。教室で私が何かを言うたびに、まわりの子が笑いをおし殺しているような雰囲気になり、離れたところでは、あからさまなクスクス笑いが起きていたのです。

この「クスクス」はクラスの子たちのどんな気持ちを表しているのか。

私は、自分の使用する日本語に、それなりの自信をもっていました。プラハにいる間中、母親は日本語を忘れさせてはならないと、小学校でやるべき全教科についてかなり熱心に教育してくれましたし、私としても教科書に書いてあることは身につけていたつもりでした。また、ときおりやってくる日本からのお客様を迎えたときも、必ずといってもいいほど、私の使う日本語はきれいだとほめられたものでした。ですから、私としては自分が話す日本語に、何か欠陥があるなどとは思ってもみなかったのです。

プラハ：チェコ共和国の首都。

「身につけていたつもり」と「思ってもみなかった」は作者のどんな心境を表しているのか。

ある日、例のクスクス笑いにがまんならなくなった私は、立ち上がって、みんなにむかって、何がそんなにおかしいのか、という怒りをぶつけました。しかし、かえってきたのは教室全体をゆるがすような大笑い。それは、そのとき私の口をついて出たことばが、「ミナサン、ミナサンハ、イッタイ、ナニガオカシイノデショウカ」という、完全な文章語だったからです。つまり、私は、ずっと教科書にかかれているような、あるいはNHKのアナウンサーのような

運動靴（うんどうぐつ）③　視線（しせん）⓪　転校（てんこう）⓪　文章語（ぶんしょうご）⓪

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

文章語としての日本語を話していたのであり、そのことを笑われていたわけです（このような話しことばを話す人とこれまでで一人だけ出会うことができました。大江健三郎さんのいくつかの小説に出てくるイーヨー＝光さんです）。

大江健三郎（おおえけんざぶろう）：1935―。愛媛出身。1994年のノーベル文学賞受賞者。いくつかの小説で、知的障害を持つ長男光さんを原型とするイーヨーを登場させている。

その日から私は、周囲の友達がどのような話し方をするのかに、注意深く耳を傾けるようになりました。そして、話しことばとしての日本語が、文章語としての日本語とはおよそ異質なことばであることに、毎日毎日気づかされていくことになります。現代の日本語は「口語体」で、話しことばと書きことばが一致した「言文一致体」である、という教科書に記されたウソに、そのとき身をもって気づかされることになったのです。

言文一致：文章の言葉づかいを話し言葉に一致させること。明治以後の試み。

なぜ「ウソ」だと思ったのか。

たしかに、プラハにいるときも家の中で、父や母とは日本語で会話をしていましたが、考えてみれば、小学生の男の子が、親とそれほどまとまった話をするわけでもなし、また教科書的な「正しい日本語」をしゃべっていたからといって、親としてとがめる理由もなかったでしょうから、私の教科書的文章語としての話しことばは放置されていたわけです。友達の話しことばを観（聴）察するようになった頃、最も奇妙に思えたのは、日本語の話しことばは、決してそれ自体として完結するような、主語と述語がはっきりしたような言い切りの形をとらない、ということでした。言っていることの半分以上を相手にゆだねるような、微妙な曖昧さの中でことばが交わされている、ということは一つの驚きでした。

「微妙な曖昧さ」とはどういうことか。

中学校へ入って日本語の使用をめぐるもう一つの困難に直面することになります。小学校のときのクラスの友人たちは、とりあえずチェコスロヴァキアという、ほとんどきいたことのない国、知っているとすれば体操のチャスラフスカ選手ぐらいという、よくわからないところからやってきたへんな転校生であるということを認知してくれていましたから、まあ少しぐらいおかしなことをしても、あいつならしかたがないと思ってくれる寛容さを示してくれていました。けれども中学に入ると、そうはいきません。生徒たちはいくつかの小学校から来るわけで、しかも、同じ小学校でも別のクラスの子とはつきあっていませ

チャスラフスカ：1964年の東京オリンピックの際に「体操の花」と称えられた、プラハ出身の女性体操選手。

「そうはいきません」とはどういうことか。

口語体（こうごたい）⓪　一致（いっち）⓪　完結（かんけつ）⓪　主語（しゅご）①　体操（たいそう）⓪　認知（にんち）①⓪　寛容（かんよう）⓪

んでしたから、私の異常行動は、ことあるごとに摘発されることになります。なにしろ、外見は、肌の色も同じ、眼も細く、鼻も低い、まごうことなき日本人なわけですから、そういう奴が、理解しがたいことやみんなと違った行動をとることは、均一であることが好まれるこの国の学校社会では、ことさら目立ってしまったのです。

日本の中学校での不幸の一つは、ロシア語学校に通い、とりわけ他の社会と比べて濃密なロシア人同士の身体的接触をめぐる生活習慣を内面化してしまっていたところにあります。ロシア人は、出会った人に親しさを表明するために、男性同士でも、女性同士でも、そして男性と女性であっても、正面から肩を抱き合い、頬にキスしたり、頬を接触させたりします。小学校六年の三学期のときは、ものおじしてもいましたし、自分の話しことばの異様さをめぐって先制パンチを受けていますから、あまり身体的な生活慣習は出ていなかったようです。けれども、親しくなった友人からは、事後的に、つまり中学での私の異常行為が問題視されたさいに、「オレもコモリに抱きつかれてキモチワルカッタよ」という告白をうけました。そう、私は、友だちを増やしたい一心で、少し言葉をかわすようになった男の子にも女の子にも、握手を求め、抱きつき、あまつさえキスをしようとしていたわけです。

「先制パンチを受ける」とはどういうことか。

「異常行為」とは何か。

もちろん、数回にわたる、異なった相手からの強い拒絶反応によって、日本人は、そのようなことはしないのだということをいやというほど思い知らされましたが、時すでに遅しで、私のまわりには、「抱きつき魔」、「キス男」といった罵倒のことばが飛び交い、「スケベ」、「エッチ」という当時の私には意味のわからぬことばを投げかけられるようになってしまいました。日本における通常の人間関係では、身体的な接触は、ただちに性的な意味を持ってしまうこと、さらには性をいやらしいこと、下品なことと感じている人が多いということをつくづく思い知らされました。これはもう、自分の文化的身体をまるごと封印するしかありません。

時すでに遅し：気が付いた時にはもう取り返しがつかないこと。

「自分の文化的身体」とは何を意味しているのか

けれども、それだけでは済みませんでした。異文化としての自分の身体を封印した私は、それなりに操ることができるようになった日本語のことばに頼って友人をつくろ

異常（いじょう）⓪　均一（きんいつ）⓪　不幸（ふこう）②　異様（いよう）⓪　告白（こくはく）⓪　数回（すうかい）⓪　握手（あくしゅ）①　拒絶（きょぜつ）⓪　通常（つうじょう）⓪

うとしましたが、ここでも大きな過ちを犯したようです。

私の通っていたロシア語学校のクラスには、ロシア人以外の子供が必ずいました。多くはかつての東欧圏の子どもたちでしたが、アフリカ圏やアジア圏の子どもたちもいました。それぞれの国の文化的事情の違いがかなりある時代でしたから（いまの世界的な文化の均質性こそ異常だと思いますが）、生活習慣のレヴェルでお互いに感じる違和感については、きちんと言語化して、お互いに納得しておかないと友達にはなれません。

どのような文化的事情の違いがあったのか。

つまり、おまえのこういうところは好きだからおまえと友達になりたいが、おまえのこういうところはいやだ、というふうに、相手の好きなところときらいなところを明確にしたうえで友達づきあいを始めていくわけです。同じことを日本の中学で、とくに女の子に対しやってしまったことを想像してみてください。一学期の終わる最後のホームルームは「親も言わないようなひどいことを言うコモリクン」についての話し合い（糾弾集会）になりました。友達になることができなかったばかりでなく、平気で面と向かって人の悪口を言う思いやりのない奴だ、ということになってしまったのです。

ホームルーム：中学校・高等学校で、担任の先生と生徒が、いろいろな問題を話しあうこと。その時間。

中学一年生の夏休みが始まる頃には、自分は日本の文化と社会的生活慣習から、完全に浮き上がっていることを自覚しました。その夏休みに、私は読書感想文を書くために、夏目漱石の『吾輩は猫である』を読みました。抱腹絶倒のユーモア小説というふれこみだったので、少しは暗い気分が晴れるかと思っての選択でした。しかし、逆効果で、読みはじめた瞬間から涙が止まらなくなりました。なぜなら、「このネコはボクだ！」と思わざるをえなかったからです。

夏目漱石（なつめそうせき）：1867－1916。小説家、評論家。

『吾輩は猫である』（わがはいはねこである）：1905年に発表される長編小説。猫の目を通して人間世界を諷刺している。

生まれた直後に、人間という異種によって親や兄弟から引き離され、たった一匹で苦沙弥先生のところに迷い込み、人間のことばはわかるが、こちらからは人間に何も伝えることができず、一度も食べたことのなかったモチを喉につまらせ生き死にの境でもがいているのに、人間たちは「ネコジャ踊り」だと大笑いする、誰一人として自分のことをわかってくれない、そんな物語に読めてしまったのです。

苦沙弥（くしゃみ）先生：『吾輩は猫である』に登場する英語教師。猫の飼い主。

その意味で、「吾輩」が人間世界に対して徹底して批判的になるのもよくわかりました。あいつらが、常識だと思い

「あいつら」は誰を指すか、筆者のどんな気持ちを表しているのか。

徹底（てってい）⓪

込んで、あたりまえのこととしてやっているふるまいは、相当におかしなことなんだ、と訴えてくる「吾輩」に、十三歳の私はいちいち同意することができました。人間世界に対する「吾輩」の違和感は、そのまま日本人が自明化している文化的・社会的な暗黙の了解事項に対する私の違和感と重なっていきました。でもそれは決して笑えるような類の同意ではなく、悲惨な状況を愚痴る情なさにおける共感だったのです。もちろん、そのような思いを綴った読書感想文が、どのような末路をたどったかはおわかりでしょう。以来、私は「国語」という教科を呪うようになります。

どんな末路だったか、想像せよ。

新出単語

下駄箱(げたばこ)⓪ 〈名〉	はきものを収納するための家具。
ジロジロ① 〈副〉	目を離さず無遠慮に見つめるさま。
上履き(うわばき)⓪ 〈名〉	廊下や板の間など、屋内で用いる履き物。
履きかえる(はきかえる)④③ 〈他Ⅱ〉	履いていたものを脱いで別のものを履く。
革靴(かわぐつ)⓪ 〈名〉	皮革で作った靴。
転校生(てんこうせい)③ 〈名〉	入学の時期以外に、他校から移ってきた生徒。
半靴(はんぐつ)⓪ 〈名〉	浅い洋風の靴。短靴。
まなざし(眼差し)⓪ 〈名〉	物に視線を向けるときの目の様子。
射すくめる(いすくめる)④⓪ 〈他Ⅱ〉	相手を見据えてこわがらせ、身が縮むようにする。
おし殺す(押し殺す・おしころす)④ 〈他Ⅰ〉	笑い、声、感情などの勢いをおさえる。こらえる。
クスクス① 〈副〉	しのび笑いをするさま。
全教科(ぜんきょうか)③ 〈名〉	国語・社会・理科・算数などを含むあらゆる学校教育の学習内容。
ときおり(時折)⓪ 〈副〉	ときどき。ときたま。たまに。
欠陥(けっかん)⓪ 〈名〉	欠けて足りないもの。また、不備な点。
がまんならない(我慢ならない)①-②	感情や欲望のままに行動するのをこれ以上抑えられない。
立ち上がる(たちあがる)⓪④ 〈自Ⅰ〉	座ったり腰かけたりしていた人が立つ。
向かう(むかう)⓪ 〈自Ⅰ〉	自分の体の前面をある物・人に向ける。
怒り(いかり)③ 〈名〉	いかること。おこること。腹立ち。立腹。
ゆるがす(揺るがす)③⓪ 〈他Ⅰ〉	ゆり動かす。ゆする。
大笑い(おおわらい)③ 〈名・自Ⅲ・形Ⅱ〉	大きな声を出して笑うこと。

悲惨(ひさん)⓪

口をつく ⓪ー①	言わなくてよいことを思わず喋る。
アナウンサー(announcer)③ 〈名〉	テレビやラジオ放送で、ニュースを報じたり、司会・実況放送することを職とする人。競技場・劇場・駅などの告知係をもいう。放送係。放送員。アナ。
話しことば(話し言葉・はなしことば)④ 〈名〉	話す時に主として用いる言葉。口語。口頭語。
注意深い(ちゅういぶかい)⑤ 〈形Ⅰ〉	注意する度合が深いさま。
耳を傾ける(みみをかたむける)②ー④	熱心に聞く。傾聴する。
およそ(凡そ)⓪ 〈名・副〉	(主に否定的な表現を伴って)まったく。
書きことば(書き言葉・かきことば)③ 〈名〉	文字を媒介とする言葉。文章として書き、読む言葉。文字言語。また、文章に用いる言葉。文語。文章語。
まとまる(纏まる)⓪ 〈自Ⅰ〉	細かい物が集まって、意味のあるものになる。
しゃべる(喋る)② 〈自他Ⅰ〉	話す。ものを言う。
とがめる(咎める)③ 〈自他Ⅱ〉	悪いこと・望ましくないこととして、注意したり責めたりする。なじる。非難する。
放置(ほうち)① 〈名・他Ⅲ〉	ほうったままにしておくこと。また、置きっぱなしにしておくこと。
聴察(ちょうさつ)⓪ 〈名・他Ⅲ〉	物事の状態や変化を客観的に注意深く聞くこと。
述語(じゅつご)⓪ 〈名〉	文の成分の一。主語について、その動作・作用・性質・状態などを叙述するもの。
言い切り(いいきり)⓪ 〈名〉	末尾に用言・助詞・助動詞などがきて文が完結すること。文の終止。
ゆだねる(委ねる)③ 〈他Ⅱ〉	一切を他人にまかせる。
交わす(かわす)⓪ 〈他Ⅰ〉	互いにやったり受けたりする。
とりあえず③④ 〈副〉	いろいろしなければならないものの中でも第一に。さしあたって。まずはじめに。
チェコスロヴァキア(Czech and Slovakia)⑤ 〈固名〉	チェコ共和国及びスロバキア共和国により構成され、1992年まで存在した欧州の国。
生徒(せいと)① 〈名〉	学校や塾などで教えを受ける者。特に、中学校・中等教育学校・高等学校で教育を受ける人。
摘発(てきはつ)⓪ 〈名・他Ⅲ〉	隠されている悪事などを暴いて、公にすること。
まごう ② 〈自Ⅰ〉	他のものとよく似ていてとりちがえる。もとは、紛う(まがう)。
奴(やつ)① 〈名〉	人(物・事)を、第三者的に突っぱなして言う言葉。
ことさら(殊更)⓪ 〈副・形Ⅱ〉	とりたてて。とりわけ。特に。格別。
とりわけ⓪ 〈副〉	特に。ことに。とりわけて。
濃密(のうみつ)⓪ 〈名・形Ⅱ〉	密度がこいこと(さま)。

内面化(ないめんか)⓪ 〈名・他Ⅲ〉	その社会が有する価値と規範を、自分の価値と規範として、受け入れること。
頬(ほお)① 〈名〉	顔の一部、鼻と口との両側の、耳にいたるまでの部分。
キス(kiss)① 〈名・自Ⅲ〉	接吻(せっぷん)。口づけ。
ものおじ(物怖じ)⓪ 〈名・自Ⅲ〉	臆病(おくびょう)で、何かにつけてこわがること。
先制パンチ(せんせいpunch)⑤ 〈名〉	ボクシングで、相手よりも先に放つ有効なパンチ。転じて、機先を制するための攻撃。
事後的(じごてき)⓪ 〈形Ⅱ〉	すでに実現した、ないしは確定したさま。
一心(いっしん)③ 〈名〉	一つの物事に集中した心。専心。
抱きつく(だきつく)③ 〈自Ⅰ〉	両腕でかかえるように相手に取りつく。
あまつさえ②③ 〈副〉	(古風な言い方で)おまけに、その上。普通、よくないことに使う。
いやというほど	これ以上はがまんできないというほど。
思い知らす(おもいしらす)⑤ 〈他Ⅰ〉	「思い知らせる」と同じ。相手の誤りや思い上がりなどを身にしみてわからせる。
罵倒(ばとう)⓪ 〈名・他Ⅲ〉	口ぎたなくののしること。また、その言葉。
飛び交う(とびかう)③ 〈自Ⅰ〉	入り乱れて飛ぶ。互いに飛びちがう。
スケベ② 〈名・形Ⅱ〉	「す(好)き」の変化した「すけ」を擬人化したもの。助平。「すけべい」に同じ。好色なこと(さま)。そのような人にもいう。
エッチ① 〈名・形Ⅱ〉	「変態」のローマ字書き「hentai」の頭文字から。性的にいやらしいさま。また、そういう人。
投げかける(なげかける)④⓪ 〈他Ⅱ〉	言葉や視線を相手に届かせる。
性的(せいてき)⓪ 〈形Ⅱ〉	男女の性に関するさま。また、性欲に関するさま。
いやらしい(嫌らしい)④ 〈形Ⅰ〉	性的に露骨で不潔な感じだ。
下品(げひん)② 〈名・形Ⅱ〉	品格・品性が劣ること。卑しいこと。また、そのさま。
まるごと(丸ごと)⓪ 〈副〉	切り分けたり一部を除いたりしない、もとの形のまま全部。
封印(ふういん)⓪ 〈名・自他Ⅲ〉	その物の使用や開閉を禁ずるために、封じ目に印を押したり証紙を貼りつけること。
操る(あやつる)③ 〈他Ⅰ〉	道具などをうまく使う。巧みに操作する。
過ち(あやまち)⓪③④ 〈名〉	やりそこなうこと。間違い。失敗。過失。あやまり。
犯す(おかす)②⓪ 〈他Ⅰ〉	法律・規則・道徳などにそむくことをする。
均質性(きんしつせい)⓪ 〈名〉	ある物質のどの部分をとってもむらがなく、性質・状態が同じであること。また、その度合い。
レヴェル(level)① 〈名〉	「レベル」と同じ。価値づけや評価をする場合の標準。全体の水準。程度。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com